

【審査員紹介】（敬称略）※各校の作品に対する審査員講評は、下記①～④の番号に対応しています。



①ミシャ・アーウィット  
ニューヨーク在住。世界各地を撮影して回るフリーランスフォトグラファー。東川町でも個展の開催歴あり。



②許力静(きよきせい)  
中国内モンゴル生まれ、東京藝術大学博士号。北京と東京を拠点に芸術活動を展開中。



③飯塚達央  
大阪市生まれ。写真スタジオ「フォトシーズン」(東町2)経営、家族の記録写真を撮影している。



④渡辺信夫  
東京都生まれ、多摩美術大学卒。日本のみならず世界で個展や写真展を開催。

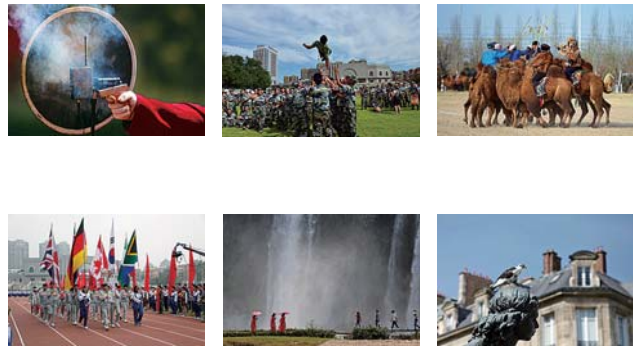
●世界が選ぶチョイス賞  
(世界の人々によるインターネット投票で決定)

北京市通州区潞河高校(中国)



選手：チェン・ティエンルイ  
ワン・ズーイエン  
チャン・インズー  
顧問：ヤン・ハイトオ

テーマ【平和】 『平和 / peace』



【審査員講評】

- ①興味深い組写真です。特に5枚目の写真は十分にテーマを表現できています。
- ②一枚一枚の写真がテーマをはっきり表現でき、一枚ずつ特定のイベントまたはシンボルにぴったりフォーカスし、被写体にせよ撮影テクニックにせよ、熟慮した上での選択だと思われ、写真の記録の本質を完全に体現しています。それぞれの作品を掘り下げて、撮り手の個人的な情緒をさらに加えると、より感動的な作品になれると思います。
- ③体育大会の様子でしょうか。競技している人や観戦している人の表情がどんなものだったのかが気になります。1枚目の写真は緊張を感じる写真なので、楽しんでいる人々の様子が分かる写真が1枚目であれば平和というタイトルに合っていると良いと思います。
- ④平和は待っているには来ない。戦って勝った時に平和は訪れる。印象に残る。笑顔の色々なグループを撮っているのが好印象です。1枚位顔のクローズアップがあれば、もっと良くなる。

●世界が選ぶチョイス賞  
(世界の人々によるインターネット投票で決定)

ジェラルド・ド・ネルヴァル高校  
(フランス)

選手：レフェブレマリオン  
ジャン・エリナ  
フェレイラジュリエット  
顧問：デネ・フィリップ



【審査員講評】

- ①良い肖像写真です。皆、マスクの下は笑顔だと想像します。
- ②マスクをかぶった様々な職種の人を対象にしているため、写真で人々の笑顔を直接見ることはできませんが、ダイナミックな目の動きと雰囲気を通して、マスクの下に隠された笑顔、コロナ危機に対して前向きで楽観的な態度が感じ取れます。
- ③コロナ禍の中で頑張る人々を捉えた良作です。
- ④コロナ禍の写真でタイトルとテーマが合っている！報道写真のようだ。

テーマ【笑顔】 『逆境の中にも光あり / EVERY CLOUD HAS SILVER LINING』



HIGASHIKAWA ユースフェス

平和と笑顔の写真、世界から集う



世界中で猛威を振るう新型コロナウイルスの影響を受け、初のオンライン開催となった第6回高校生国際交流写真フェスティバル (HIGASHIKAWA ユースフェス2020)。

そんな中でも「コロナに負けない！」と世界18カ国から19のチームが参加してくれました。【平和】と【笑顔】の2テーマで、それぞれ6枚の組写真を2作品制作。審査員や選手同士、世界の人々からのオンライン投票で3つの賞が決まりました。

オンラインならではの取り組みとして、選手同士が交流できる「オンラインフォトクリニック」も実施。東川町を紹介する動画「ひがしかわさんぽ」なども公開し、「新しい日常」の中でも世界中の人々と繋がることができました。

※ここでは、受賞した各校の組写真のうち、どちらか1つのテーマの作品を掲載しています。全ての参加校の作品や講評は、ユースフェス公式HPの「アーカイブ」よりご覧ください。



<https://higashikawa-youth-fest.jp/archive.html>

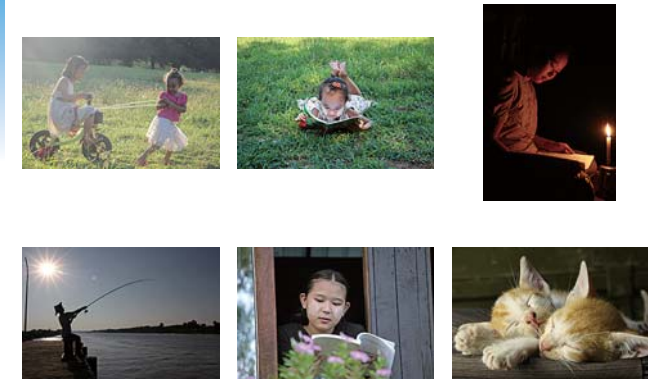
●審査員チョイス賞  
(4名の審査員による作品審査で決定)

トンテー国立高校(ミャンマー)



選手：ノオ・ヌ・ヌ・ウエイ  
ティン・タンダ・ス  
トオ・テツ  
顧問：ラ・ウィン

テーマ【平和】 『日常生活の中の平和 / Peace in daily life』



【審査員講評】

- ①考え抜かれた組写真で露骨になることなくテーマもよく反映されています。
- ②人物写真がメインの作品。一人一人の笑顔は穏やかで、構図も光線の使い方も、優れています。中に、傑作とも言える写真が何枚かある。今後は撮影スキルを向上すると同時に、その他の撮影テーマも試すことをお勧めします。
- ③光の扱い方がとても良いと感じました。2枚目と5枚目が似たような構成の写真なので、1枚目のような優しい光に包まれたような光景の写真が代わりに入れればより良いものになったと思います。
- ④コロナをテーマにした写真はタイムリーだ。作者の意図が6枚の写真に表れている。これもコロナ渦中の写真だが子供はマスクをしないのだろうか、それとも手に入らないのか?等を考えても、それ以上に笑顔に救われる。

●選抜校チョイス賞  
(参加した選抜校同士の投票で決定)

ポップラウィッタヤー学校(タイ)

選手：ディーラサック タンターオ  
アピワッタナー ヤサン  
パーダー・シーキーラティカン  
顧問：ブーチャット・ラオワン



【審査員講評】

- ①よくできました。初めの4枚が良いです。
- ②比較的地域色の強い作品。地元の人々の手付かずの生活を背景に、構図や色使いなどの撮影テクニックが非常に精通しています。
- ③とても良いと思います。1枚目の写真の代わりに5枚目や6枚目のような田舎の風景の写真が入っていればなお素晴らしいものになっていたでしょう。
- ④笑顔のアップから始まり、少しずつ引いて全体が見えて来るのが、映画のシーンのように印象的だ。

テーマ【笑顔】 『田舎から笑顔を / Smiles from the countryside』

